

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

歴史を重ねた伝統を世代を超えて発展させるため、これまで受け継いできた「自主・自律」の精神に富み、社会的責任の自覚の下で「自由」を発揮するとともに、世の中の変化に対応して既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合し、地球的視野から主体的に行動でき、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間を育てる。そのため、次の理念に基づいて、下記のような学校づくりを推進する。

◎ 本校における教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な社会の形成者として、個人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を備えた、責任ある人間の育成を期して行う。

1. 一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って府民の期待に応える学習活動を築く。
2. 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。
3. 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

2 中期的目標

○ 伝統を引き継ぐとともに、時代の要請に応じた新たな学校づくりにも取り組むために、以下のことを行う。

①「自主・自律」の精神で、主体的に課題に取り組み創造性を発揮する姿勢を育む教育の発展。②地球的視野を持った生徒の育成に向けた教育の開発。③言語活動、理数教育、外国語教育の充実。④ユネスコスクールの活動を核とした国際教育の推進。⑤新たな教育課題への取り組みと本校の伝統とを融合させた積極的かつ効果的な教育の追求。⑥全日制・定時制両課程間の緊密な連携による円滑な運営と教育効果の向上の探究。⑦生徒の学力ならびに教員の授業力向上のための組織的な研究。⑧既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間の育成に向け、経験の差を乗り越えて教員同士が相互に高め合う教員自身の意識改革。

1 一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って、府民の期待に応える学習活動を築く。

- ア 生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。
- イ 幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、それぞれの進路実現ができる力を育成する。
- ウ 体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
- エ 世界に目を向けた広い視野で自らの生き方を考える教育に取り組む。
- オ 進路指導年間計画を充実させ、一層の情報提供に努めるとともに、各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。
- ※ 授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断において、「自分の学力向上」「授業態度」の積極的回答、平成 29 年度 78%、平成 31 年度 80%以上をめざす。

2 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。

- ア 「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。
- イ さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育みともに高めあう力を育むとともに、市民として公民意識の育成を図る。
- ウ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図る。
- エ 人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
- ※ 1 年次の部活動加入率 95%以上の維持を図る。オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。
- ※ 生徒会選挙の投票率（自主投票）85%以上を維持する。

3 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

- ア 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させうる生徒を育成する。
- イ 授業での取組だけでなく、留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。
- ウ ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
- ※ 普通科高校として3年間を通じて生徒に幅広く学ばせ、センター試験出願時における6教科7科目の割合H29年度70%以上、平成31年度75%以上をめざす。
- ※ 生徒の進路選択力を育成し進路希望の実現を図り、国公立難関私立170名以上入学をめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活全般】学校へ行くのが楽しいという生徒の割合は 93.9% (H28 は 91.5%)、学校は話をよく聞いてくれると思う生徒は 92.3% (H28 は 91.3%) と高率。自主自律を重んじる校風を尊重すべきと考える保護者は 94.1% (H28 は 94.9%) で、学校生活全般の肯定度は高いと言える。</p> <p>【授業】授業が学力向上に役立っていると考えている生徒は 79.3% (H28 は 80.7%) は高いものの、約 20% の生徒が満足していないのが課題である。</p> <p>【進路指導】進路に関する情報提供を肯定的に評価した生徒は 84.1%、本校の進路指導を肯定的に評価した保護者は 79.9%。更なる改善をしたい。</p> <p>【生徒会・部活動】主体的に取り組んでいる生徒は 79.9% であるが、更に積極的に取り組む生徒増をめざしていく必要がある。</p> <p>【情報提供】メルマガを通じた情報提供については 80.6% が肯定的な評価であるが、健康指導や教育相談体制については周知されておらず、検討する必要がある。</p>	<p>【第 1 回】平成 29 年 6 月 29 日 (木) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数については理由の分析が必要。生徒に遅刻の不利益を納得させることが大切。数値目標を△回以上の生徒を○%以下にするといった目標の立て方が良いのでは。 国公立大学への進学希望者が多いが、合格者数は半分である。頑張らせてほしい。 学校評価の◎と○の基準を明確にしたほうが良い。 <p>【第 2 回】平成 29 年 10 月 30 日 (月) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> オーストラリア語学研修は内容が充実。費用も妥当である。 2020 年より始まる新テストについての検討を進めていってほしい。 <p>【第 3 回】平成 30 年 2 月 19 日 (月) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 校則についての細かい規則がなく比較的的自由だが、その中で充実した学校生活を送るのが「春日丘らしさ」である。 保護者に学校の情報が十分に伝わっていない可能性があり、その対策を検討する必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 一般的な教養を高め、 実現を図って、府民の期待に 応える学習活動を築く。	○幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。 ○各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。 (本校におけるアクティブラーニングとキャリア教育の追求)	ア、自ら調べ、考え、知識・情報をもとに課題を発見して解決する力、そして自ら思考して判断して、表現・発信する力を育む。それによって、主体的積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。(春日丘版アクティブラーニングの研究と実践) イ-1、学力のより高い伸長につながる教育課程を研究開発し、進路保障の充実を図る。 イ-2、サタデーセミナー(土曜講習)の充実。 ウ-1、充実した総合学習等において、協力して調べてまとめ、そして発表する学習によって、ともに高めあう活動の習慣を身に付けさせる。 ウ-2、理数教育推進のためのサイエンスツアーの実施(年間2回以上、宿泊研修を含む)。 エ、「骨太の英語力養成事業」による授業改善や TOEFL 講座等によって、グローバルな視点に立った実践的な英語力の育成をめざした教育を構築する。 オ-1、進路指導部と学年が連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。 オ-2、卒業生による「藤蔭講座」の継承発展を図る。 カ、教師力の授業力の向上を図るため、相互の授業を公開等を行いつつ、授業改善についての研修・研究を行う。	ア、学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」「授業態度はどうか」の積極的 回答 75%以上(H28:80.7%) イ-1、授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」の平均 3.06 以上(H28:3.08) イ-2、サタゼミの年間10回開講を確保(H28:10回) ウ-1、学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発だ」の積極的 回答 75%以上(H28:70.7%) ウ-2、2回以上のサイエンスツアー実施 エ、TOEFL 講座実施と iBT チャレンジ 40 点以上 10%の達成。(H28:11%) オ-1、学校教育自診断「(進路に係る)必要な情報をよく提供」の積極的 回答 80%以上(H27:82.2%) オ-2、「藤蔭講座」アンケートにおける満足度 80%以上 カ、教師間の授業見学を含めた授業研究、職員研修の実施2回。	ア、学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」「授業態度はどうか」の積極的 回答 79.3%(○) イ-1、授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」の平均 3.10 (○) イ-2、サタゼミの年間開講数 10 回(○) ウ-1、学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発だ」の積極的 回答 70.8% (△) ウ-2、サイエンスツアー実施回数 2 回(○) エ、TOEFL 講座実施と iBT チャレンジ 40 点以上 49%(◎) オ-1、学校教育自診断「(進路に係る)必要な情報をよく提供」の積極的 回答 84.1% (○) オ-2、「藤蔭講座」アンケートにおける満足度 98% (◎) カ、教師間の授業見学を含めた授業研究、職員研修の実施2回(○)
2 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を 発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む 伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげ る。	○「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。 ○さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神及びともに高めあう力を引き伸ばしていく。 ○生徒会活動・ボランティア活動の活性化等によって安全安心な学校づくりを推進する。	ア-1、ICT 機器の活用力の育成や情報モラルの向上を図る。 ア-2、生徒図書委員会の選書活動等の他、読書指導の充実に全校で取り組む。 イ-1、部活動を通じて意欲的な学校生活を創り出す力を育成する。 イ-2、音楽会や美書展の他、生徒の制作、表現活動を活性化する方法を一層工夫する。 イ-3、挨拶の励行と遅刻指導の更なる充実 ウ、体育祭や文化祭等の生徒会活動を通じて、本校の歴史と伝統を感じ取るとともに、新しい歴史を築いていく自覚を持たせる。 エ-1、府のスクールカウンセラーの配置を踏まえて、教育相談体制を整えるとともに、教員の力量の強化を図る。 エ-2、学校安全担当者を明確にし、学校保健委員会や、保健部、生徒部並びに三師や外部専門家が積極的に連携できる体制を推進する。 エ-3、全教職員が協力して生徒理解に努めるとともに生徒の規範意識を醸成する。	ア-1、ICT 機器を活用したプレゼンテーションに 取り組む授業を1回以上実施して公開する。 ア-2、学校教育自己診断の読書率向上で 40%以上。(H28:40.4%) イ-1、1 年生での部活動の加入率 95%以上。(H28:98.1%) イ-2、音楽会や美書展等の充実 イ-3、遅刻数年間 2600 回以下。(H28:2784 回) ウ、学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的 参画 75%以上(H28:76.5%) エ-1、学校教育自己診断で相談対応の満足度(保護者) 65%以上(H28:59.4%) エ-2、安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる 会議を年間2回以上開催する。(H28:2回) エ-3、学校教育自己診断「話をよく聞いてくれる」の積極的 回答 90%以上(H28:91.3%)	ア-1、学校全体としての取組みとしては不十分(△) ア-2、学校教育自己診断の読書率向上 38%(△) イ-1、1 年生での部活動の加入率 97.2%(○) イ-2、音楽会や美書展等の充実(○) イ-3、遅刻数年間 2494 回(昨年比 89.6%)(◎) ウ、学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的 参画 79.9%(○) エ-1、学校教育自己診断で相談対応の満足度(保護者) 59.2%(△) エ-2、安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる 会議の開催を年間2回(○) エ-3、学校教育自己診断「話をよく聞いてくれる」の積極的 回答 92.3%(○)

府立春日丘高等学校

<p>3 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。</p>	<p>○学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させる生徒を育成する。 ○留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。 ○ユネスコスクールの取組を様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。</p>	<p>ア-1、授業、学校行事、部活動、地域や関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに生き方やあり方を探求させ、生徒の社会性を育む。 ア-2、地元中学との連携の一環として、茨木市内の中学校と高校との交流サッカー大会を実施するなど、部活動等を通じて地域連携・交流・貢献の活動を発展させる。 ア-3、地元 NPO や企業との連携をさらに深め、「カス(春)ピカ」を含む茨木市内清掃活動等を引き続き取り組む。 イ-1、立命館大学等との高大連携の推進等、市域の教育力向上に貢献する。 イ-2、海外研修、国際交流の機会を提供し、留学生交流等、実践的な英語力の育成の機会を作る。 ウ-1、NIE 活動を継承、発展させるとともに、ユネスコスクールの活動に取り組み、学校間のネットワークを利用した教育の活性化を図る。 ウ-2、東北派遣プロジェクトの成果を継承する。</p>	<p>ア-1、学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的回答 90%以上(H28:91.5%) ア-2、サッカー大会やチャレンジ理科教室、楽しい科学実験教室などの中学生、地域向け活動実施。 ア-3、清掃活動(カスピカ)等の継続。(H28:2回) イ-1、立命館大学や大阪教育大学との高大連携による事業の展開 イ-2、姉妹校等との国際交流の他、異文化交流の機会を多く設ける ウ-1,2、ユネスコスクール活動をより活性化して、他校との交流の機会を増やす。</p>	<p>ア-1、学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的回答 93.9% (○) ア-2、サッカー大会やチャレンジ理科教室、楽しい科学実験教室などの中学生、地域向け活動実施。 ア-3、清掃活動(カスピカ)等の実施回数は1回 (○) イ-1、大阪大学、大阪教育大学との高大連携による事業を実施 (○) イ-2、サウスウエスト高校との姉妹校交流、JICA 等を通じた異文化交流を実施 (○) ウ-1,2、模擬国連全国大会への参加、東北プロジェクトの継続的な活動の他に、ワンワールド等での発表の機会を得た (○)</p>
--	---	--	--	--